

には、リンクがあります。 は、WANNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム あんきな家

日付 平成18年3月31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験14年
評価調査員 在宅介護経験9年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「奥さん、あなたは、きれいなひとじゃなあ」「そうな、しわもないし、若いよ、男性から、じつと見られてこんな誉め言葉をいただくのは、この歳になっても悪い気はしない。いい気になった私がお喋りを始めると、話はぐんぐん盛り上がり、そこら中笑いの渦が出来る。言葉の少ない人も、その表情から話題の中に入れてくれているなあ、と感じる。嬉しさが込み上げてくる。

「あなたがこのホームに入居したとして、どんな風にされたいかを先ず考えて下さいと、よく職員に言うんですよ」と語る管理者は「ああしたい、こうしたいも十人十色。こちら側から無理強いするような決まり事のない気ままな暮らしを目指していて、その思いがここに実現している。「気まま」を良しとして「放ったらかしではないか？」と疑いたくなるホームもある中、「答えは利用者さんが出てくれます」と言う管理者の言葉通り、あんきでのんきで、それでいて活気が溢れるホームになっている。

利用者側の家庭事情により入居者の入れ代わりが続いていて、それでも排泄ケア等困難な状況の中、職員はとてよく頑張っている。頑張っている顔を全く見せないで、明るく、おあらかで、腹の内側もお互いさらけ出せるような対等な人間関係を保ちながら、特色あるホームを築いている。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

「今の時代、年寄りには物よりおしゃべり」と我が家の百二歳の母はよく言う。母が一番満足そうなのは、自分が話したいと思っている事をうまく引き出してもらった時。しかも、家族でなく(他人に。全員がそうだと決まってしまうが)、やはり、いつもの顔ぶれではない人の魅力は大きい。厳しい条件の中ではあるが、今の努力をさらに続けて欲しい。

「家庭のような」「家族に近いつながり」をグループホームに求めるのは当然であろう。しかし「この環境でしか得られない良さも沢山あるのでは？」と、家庭で年寄り暮らしは私に思ってしまう。その長所を見つけてアクションを仕掛けるのも、また楽しいのではないかと。

家族からの意見や要望を受け入れる努力や工夫はあきらめないで、あの手この手を繰り返して欲しい。行事への参加、日常の訪問時の会話、家族からのおたより等から些細な事を見付け、ホーム作りの仲間に入ってもらおう雰囲気へとつないでみてはいかがでしょう。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

9人のグループホームの住人を、一人ひとりより良い対し方を目指すために更にユニット化しようという試みもあるが、ここでは既に実践されている。小さな単位で寄り添える事が、深い絆を生み個々を尊重した付き合いも出来る。利用者同士の階段を使った上下の移動も色々な意味で有効だろう。

こういった姿勢から「個性を大切に」といった方針が具体的に実現している。自分の居室に他人に入られたくない人にはそれなりの方策を、間違っ入りそうになる人に対してはさりげない支援をしている。また、職員自身も自ら本音や弱み、人間らしさをさらけ出して、利用者があまえてくるのを受容している。利用者は、時には子供のように拗ねたり攻撃したり、わざと反発したりする。こういった行動を職員は困った事と受け取らないで、「あまえてくれて」と喜んでいる。その通りと思う。こういった本音の付き合いが出来て初めて「人間として尊重された対等の関係」がなり立つのではないかと。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

「全体を通して特に良い項目」にも書きたいと思う程、このホームの「日常記録」が素晴らしい。バイタル面や生活上の変化等必要事項に止めないで、一人ひとりの言葉や動きの描写が具体的に書かれていて、その人の内面的な心の動きが推察される。この様な書き方は職員がその後のこの人にどのように対処したら良いかという的確な示唆となり、職員の想像力を膨らませる。「愚痴も入っています」という管理者だが、それは大いに結構と思う。職員の吐露はサービスの質を高める為の源ともなり、また、そうした吐露を共感したり、改善の方向を探る方策に使えば、これはノート上の意見交換の場となり得るし、ホームの足跡としても貴重な資料となる。小さく問題発生時や予測される時に、この「日常記録」の書き込みや意見交換が確実になされるならば、アクシデントの予防にもつながるだろう。「細かくて重複した記録は出来る限りしないで、利用者さんに寄り添いたい」と願う職員の思いには全くの同感だ。

今後このホームの、サービスの質の向上に向けての方向性は大切に守って頂きたいと願う。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		

記述項目 グループホームとしてめざしているものは何か

「普通な家庭でそうあるように、本人がしたい事をしている。このことがこのホームが目指している全てです」の言葉通り、「私はこのお家の主婦です」と言わんばかりの さんは、休む間も惜むかのように家事に励んでいる。「よく働かれますね」と私が声をかけると「いえ、何も満足に出来なくて…」と謙遜する手先は起用に働き続けている。食事の時その人に配られたおしぼりを、客の私のマットにそっと差し出して「どうぞ」と言う姿や、風が入り込んで少し寒がる仲間を気遣う様子から、利用者同士がお互いいたわり合いながら、生き生きと暮らしている日常がよく伺われた。

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

「リビーちゃんは人間で言うところ35歳。頭が良くてね。みんなこの子に癒されるんですよ。あそこにある犬の飼育の本で勉強もしますけど」と さん。リビーはこのホームの立ち上げからの古参だから大先輩と言う。このホームの場作りに大きく貢献しているのは言うまでもない。アルバムを見ても本人も利用者の一人と思っている風である。

居室はトイレや洗面台もゆったりしつらえてあり、個性的な部屋になっている。リビングもそれぞれの居場所があり寛げる。外回りは花の小鉢が春を呼んでいる。リビングにも置いていないなら、コメント付きのアルバムを置いて、少し前の昔話が出来ると良いと思う。

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		